

# 牛久：学校周辺に見る自然

第14号 ひたち野うしく小

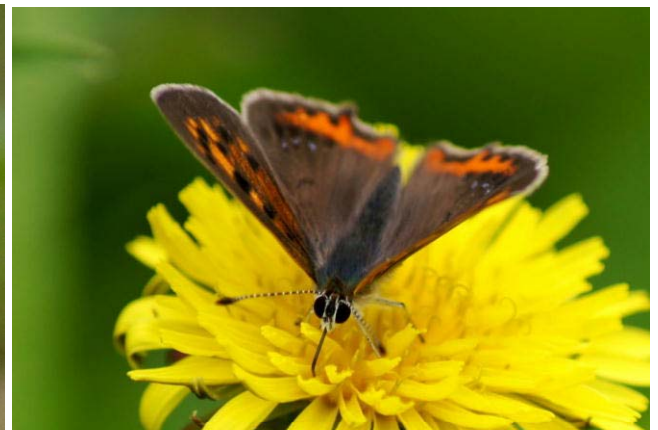
2012年7月1日発行

＜ 梅雨の水辺公園 ～動物のすがたを観察しました。その①. チョウの仲間＞



湿度の高さを感じた6/19、そして、日ごしは強いものの涼しい風があった6/26、ひたち野うしく小3年生と水辺公園を歩きました。今回の目あては、「動物のすがたとかんきょう」。昆虫をはじめとした動物たちが、どこで何をしているか？の観察でした。

この号では、当日見られたチョウの仲間を紹介しましょう。彼らは、どこで何をしていたでしょうか？ 覚えていますか？ つかまえた昆虫を虫かごに入れ、みんなで観察したよ。



チョウでは一番多く見かけたベニシジミ。花のみつを吸っていたよ。

今回の観察で、一番よく見かけたチョウが、このベニシジミ。シロツメクサやセイヨウタンポポなどによく訪れては、ストローを長くのぼし、花の蜜を吸っていましたね。季節で翅の色が少し変わり、夏型は黒っぽくなります。幼虫はギシギシやスイバなどの葉を食べますが、ここにはたくさん生えていますね。オスはなわばりを持ち、他のチョウなどを追いはらうすがたも見られました。



追いはらわれた、きれいなシジミチョウが、その近くで花の蜜を吸い始めました。私の好きなチョウのひとつで、ツバメシジミです。どのくらい近づくと、追いはらうのでしょうか？翅の表は、オスではきれいに光り輝く青ですが、メスでは灰色っぽいじみな色をしています。幼虫はマメ科植物の花や新芽などを食べます。同じシジミチョウの仲間といっても、幼虫の食べ物はそれぞれ違うのですね。



オレンジ色のもようと尾のような突起が特徴のツバメシジミ。表も輝いて美しい。花のみつを吸っていたよ。





たがいによく似た、ヤマトシジミ(左)とルリシジミ(右)。翅の黒点や目の色などで見分けられる。

こんなシジミチョウもいました。ヤマトシジミ(左)とルリシジミ(右)。よく似ていますね。翅の黒い点のもようが、ヤマトシジミの方がはっきりしていて数が多く見えます。また、目の色がヤマトシジミでは灰色っぽく、ルリシジミではまっ黒です。幼虫は、ヤマトシジミはカタバミの葉、ルリシジミはハギやフジなどの花を食べます。



シジミチョウの次によく見られたのが、モンシロチョウとモンキチョウでした。

モンシロチョウは、写真のブタナやヒメジョオン、シロツメクサなど、いろいろな花にうつつは、ストローを伸ばし、みつを吸っていましたね。けっこう長い間、じっととまっていたくれたので、じっくりとそのようすを観察できました。捕虫網をかぶせて、体の特徴を観察していた班もありましたね。

ブタナの花みつを吸う、モンシロチョウ。



こちらのモンキチョウは、ムラサキツメクサの葉の上で腹部をまるめていました。そう、卵を産んでいたのです。幼虫がこれらマメ科植物の葉を食べるからでしょう。卵を産む植物も、ちゃんと見分けているのですね。たいしたものです。よく似た上のモンシロチョウは？ そう、アブラナ科の葉でしたね。

腹を曲げ、ムラサキツメクサに産卵するモンキチョウ。

最後に、ナミアゲハ。ストローを伸ばしていますが、その先に花はなく湿った泥の中にさしています。そう、水と一緒に泥の中のミネラルを補給していたのです。幼虫は夏ミカンなどミカン科の葉を食べます。よく似たキアゲハも飛んでいましたが、幼虫はニンジンやパセリなど、セリ科植物の葉を食べます。食べ物が分かれば、幼虫や卵も見つけられるかもしれませんよ。【理科支援員：宮内】



泥水から、水分とミネラルを補給するナミアゲハ。